

開会挨拶

(公財)日本生態系協会 副会長 今村信大

皆様こんにちは。公益財団法人日本生態系協会、副会長の今村信大でございます。開会にあたりまして、主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、「国際フォーラム グレーインフラからグリーンインフラ 強靱なくにづくりに向けて」にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。ご多忙のなか足を運んでいただき、関係者一同、心より感謝申し上げます。また、開催に際しましては、環境省、国土交通省などの政府省庁をはじめ、様々な機関・団体よりご後援、ご協力を賜りました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、本日のフォーラムは、自然の機能を活かしたインフラによる持続可能な社会をテーマとしております。日本政府も、東日本大震災から得た教訓を踏まえ、防災・減災と、国際競争力の向上に資する強靱なくにづくり、いわゆる「国土強靱化」の推進に向けて動き始めました。

地球温暖化の影響がますます顕著になるなか、世界各国・地域が、防災・減災について、避けては通れない、重大なテーマとして取り扱うようになってきました。欧米の国々では、人工構造物によるグレーインフラに代わり、自然生態系のもつ多面的機能を、グリーンインフラとして活用するという考え方が浸透しつつあります。

私も、先日アメリカを訪問し、都市部や沿岸部における取り組みの現場をいくつか見てまいりました。再生した湿地や草地、砂浜などが、防災・減災という点で、いずれも大きな成果上げているというお話でした。

ヨーロッパでも、EUを中心にグリーンインフラの取り組みが進んでいるとうかがっています。EUでは長年にわたり「ナトゥーラ2000」という生態系のネットワークづくりに力を入れてきました。すばらしい取り組みであり、私どもも機会ある毎に紹介してまいりました。本日は、EUの環境調査機関、欧州環境庁より、ゴーム・ディエさんにおいでいただきました。EUのグリーンインフラ戦略についてお話しただけということ、非常に楽しみです。一方、私ども日本国内の取り組みとして、大都市圏である愛知県の「生態系ネットワーク」の政策と、雄大な北海道の自然再生の取り組みについて、ご紹介いただく予定です。グリーンインフラを通じた、強く、しなやかなくにづくり・地域づくりについて、最先端のお話がうかがえるということで、大変期待しているところでございます。

本日の国際フォーラムが、日本における自然の機能を活かしたインフラの展開と、持続可能な経済や社会の構築に貢献できることを願いつつ、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

